

まんよう うたげ
万葉の宴

加羅古呂庵 一泉

2024.11.3 作曲

尺八I 1尺8寸管

尺八II 1尺8寸管

箏I 楽調子

箏II 楽調子

十七絃

運指、奏法については、適宜工夫していただいけこうです。

万葉の宴

『万葉集』の数多くの歌の中から宴にまつわる歌を題材に、「月の舟出づ」「一杯の濁れる酒を」「この世にある間は」の3つシーン(場面)で構成してみました。

春日なる 御蓋の山に 月の舟出づ

みやびをの 飲む酒杯に 影に見えつつ 作者未詳(巻7の1295)

験なき 物を思はずは 一杯の

濁れる酒を 飲むべくあるらし 大伴旅人(巻3の338)

生ける者 遂にも死ぬる ものであれば

この世にある間は 楽しくをあらな 大伴旅人(巻3の349)

平城京の東、御蓋山とその向こうの春日山。その上に出た半月を舟に見立てて、盃の酒に浮かべよう。雅な宴の始まり。

悩んでもしかたがないことをあれこれ思い悩むよりは、一杯の酒を飲んで忘れてしまおう。孤独な宴。

生きとし生けるもの、必ず死が訪れる。生きている間は楽しくありたいもの。宴も佳境、人生も。

参考文献：『万葉手帳』(上野 誠、東京書籍)

※縦譜につきましては、当該楽器のほかには他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。また、十七絃は箏に置き換えて記載しています。正確には、五線譜(スコア)をご参照ください。



加羅古呂庵ホームページ

95	89	83	77	71

万葉の宴 (4)

66	61	56	51	46

万葉の宴 (3)

一坏の濁れる酒を

♩=76

3/4 3/4 3/4
mf (乙) mf (乙)

十七絃 第一

